

またも、新党チーム?!
でも、長つぎするのかしら???

止めましょう!
テロも戦争も



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団
2017.9.28. No.1513.
御相談はお気軽に
TEL とも 3905-0970
FAX とも
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)



「核兵器禁止条約」に署名する政府と。
「安倍9条改憲NO!」の議席を増やしましょう。

◎9月23日、赤羽西口ひろばでの「女性たちのリレートーク」。
次々にマイクを握り、年金介護、原発政策への怒りの声も。

志位委員長と池内さおり衆院議員(東京12区の
小選挙区と比例) 9月23日
赤羽東口
2000人超の参加者を前に、政策と決意をかつやく。

志位和夫委員長の訴えを聞く人たち。車上右
は池内さおり衆院議員。23日、東京都北区



10月10日(水) 公示
10月22日(日) 投票日です。

☑ピラ配布や電話や声かけに、ご協力下さい。

9月28日臨時国会、願解散

- ◎森友・加計疑惑にフタをする一息勝手な解散を強行する安倍政権です。
- ◎安倍夫妻の国政私物化に、国民は怒っています。そればかりか、自民・公明の安倍政権は、戦争法や共謀罪の憲法違反を強行。さらに「ジャングルのカジ」を推進し、道路で街もくらしも、商店も、文化も破壊することを認めた、公明党の元国交大臣。
- ◎何としても、この暴走政治を変えたいですね。池内さおり衆議院議員と力をあわせて、この東京12区から。

野党と区民・市民の共闘 12区から池内さんこそ

- ◎東口での緊急街頭演説は、自由党からメッセージがよせられ、新社会党の福田議員の応援スピーチ。東洋大の大野教授や子育てママからの応援など、幅広い方々の新しいとり組みが開始されました。
- ◎志位委員長は、全国遊説のスタートとして、赤羽東口から、安倍政権を退場させるための歴史的な選挙、共闘の力を広げて、この12区から新しい政治をつくり出そうと訴えました。小選挙区は池内さおり、比例は共産党

4つの小学校、このまじ

- ◎27日(水)、桐ヶ丘中ブロックの小学校をどうすると、協議会が開かれ、多くの委員から「このまじ4校で。この地域では、住宅も人口増も見込まれる」との意見が出されました。
- ◎「教育委員会にこの協議会を出されたご意見を、持ち帰り討」ということになりました。
- ◎赤羽台団地トンネル付近崖線に、やっと、エレベーター設置工事の説明会がおこなわれます。

文化 学問

論壇時評

堤 文俊

北朝鮮問題、今こそ対話のとき

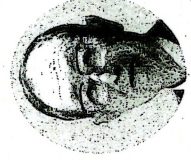
北朝鮮の核・ミサイル問題をめぐる、今ほど対話による解決が求められるときはない——良識ある人々の思いが論壇上に現出しています。元中国大使の呂祥平氏は「米軍は核を使いながらいる」(文芸春秋)で、戦争となれば莫大な被害を受けるのは、北朝鮮はもちろん、韓国、中国、日本であってアメリカではないことを指摘。

「日本は太平洋戦争で、多くのことを学びました。戦争は国民を犠牲にする」「だから日本は二度と戦争をしてはいけない」という強い覚悟と忍耐を持たねばなりません」と述べ、「あくまで対話による解決を進めていくべきです」と主張しています。評論家の片山杜秀氏は、「北朝鮮問題を平和的に処理しようとするのなら、米國が北朝鮮を対

等の相手と認めて「対して外交するほかあるまい」(週刊エコノミスト)5月号(「國論虎」)と指摘。

姜尚中東京大学名誉教授も「専守防衛を基本とし、平和憲法を擁する日本であれば、もっと外交に重きをねぐべき」(AERA)4月号と強調しています。

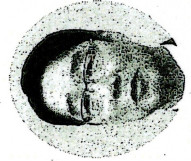
この問題は、日米同盟や核兵器禁止の問題へと議論が発展する可能性がありま



丹羽宇一郎氏



寺島義郎氏



前川喜平氏

●北朝鮮の核・ミサイル、この問題の根本的な解決のためには、もう、核兵器は禁止だと国際的なルールに当たっていると、明確にして、北朝鮮に対して、アメリカ・ロシア・大統領は迫るのだと思いたす。

日米同盟一辺倒 見なおしを提起

丹羽氏は「朝日」(7日付)で、「世界情勢が変化しているのに、日本はこれまで通り日米同盟強化の一辺倒です」と指摘しつつ、なぜ沖縄に米軍基地があるのかと問いかけます。「米國を守る盾になるためです」とのべ、日米同盟について考える時だと強調します。

「法律を変え、専守防衛を超えてトコトコついていくだけではない」。軍事力だけではなく、むしろ国際政治の力で戦争を避けることを安全保障の基本に置くべきと洞察しています。

寺島義郎(日本総合研究所会長)「被爆国である日本の立ち位置を世界は見ています。その立ち位置から、日本らしい選択を」(財界)10月3日号)は、北朝鮮問題の打開のために、日本が核兵器禁止条約の先頭に立ち「北朝鮮の恫喝に対して核の使用は決して許さ

れるものではない」といことを主張すべき」と発言しています。

一方、安倍政権は世界でも異常な「対話否定論」を展開し、軍事対応に前めりになっています。北朝鮮問題を奇貨として、戦争法―安保法制の具体化、憲法改悪へと突き進もうとして、いることは重大です。前川喜平(前文部科学事務次官)「権力への迎合はステイアの罪過でしょう。健全な批判精神がジャーナリズムの命だ」(ジャーナリズム)は、「今改憲しようとしている人たちが、特に自民党の改憲草案を作った人たちには絶対に改憲してほしくない」と述べます。憲法には一戦争を憲法化したという人類の知恵がある。「人類の知恵の積重ねの中、で生まれた」と広い視野からとらえます。「日本史と世界史を一緒に学んで近代民主主義の歴史や自由を獲得してきた歴史を知ること」と憲法の意義を重ねて強調することで、安倍政権

●前川喜平氏の諺、に、あらためて諺を作らなければと思わされた。諺の方向からご意見あり、憲法保護を大切にします。

第二章 戦争の放棄

〔戦争の放棄と戦力の否認〕

第九条 日本国民は、正義と秩序を基

調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

は人類の歴史も英知も知らないという激烈な批判を展開しているといえます。

元米兵士の発信 重く受け止めて

戦争する国になったと、き、どうなるのか。大矢英代(元オシャリーナリスト)「遺像を捨てて、不戦を選る元米兵たち」(世界)は、「海外で戦争する国」の先例であるアメリカの元兵士をルポしています。「軍隊内で受けた性的暴行。人を殺せと叩き込まれる訓練。そして正義のためだと教えられた戦争で、多くの民間人を犠牲にする行為に加わってしまったこと。戦争という巨大な暴力の『加害者』にさせられたこと。そして自らもまた『被害

者であること』—それらを自ら経験した元兵士たちに共鳴する思いは、米軍の構造的暴力に対する怒りでした。「日本人がいかに憲法九条を大事にしているかを学んだ。平和を維持できるように国を越えてつながりたい」との元兵士の発信を重く受け止めたいと思います。

日本を戦争する国にしてはいけません。若者を戦場に送ってはならない。安倍の改憲を許さない。核兵器禁止条約に参加できる日本を。総選挙はその思いをかええる絶好のチャンスです。(つづき・ふゆとし)